

1905
シリーズ③
もつすぐ
百周年
2005

その頃は高等女学校の方針で、生徒は3〜4kmの徒歩通学を義務づけられていました。私は市電で通つておりましたが、明道町から乗つて平田町で下り、学校のある池下まで40分ほどかけて歩いたんですよ。

部活は、人気のあったテニス部を希望しましたが水泳部に決められてしまいました。泳ぐのは初めてで、バタ足の練習から始めました。プールの水

が汚くて、底が見えないくらいだったんです(笑)。5月くらいから泳ぎ始めましたが、寒いので、プールの横の小屋にお風呂が沸かしてありました。先輩が厳しくて、25mの途中で立つとプールサイドから竿で叩かれる(笑)。そのおかげで、夏には25m泳げるようになりました。

2年生の夏過ぎ、学徒動員に出ました。今の金山の名古屋市民会館の

あるところに専売局(日本専売公社の前身)があり、私はそこで巻き上げという、機械から出てきたタバコを箱に詰める仕事をしておりました。10日に1度くらい、専売局からタバコを5箱ほどいただき、ご近所の方に差し上げると、大喜びされたんですよ。当時、タバコは配給制でしたから。

でも次の年(昭和20年)の3月から空襲がひどくなり、12日に専売局は焼けてしまいました。そこで2年生は学校へ戻り、運動場の横や、西運動場を畑にしてサツマイモを作っていました。授業はありませんでした。名古屋城が焼けたのはそのあと、5月14日です。

というのが普通で、私も名古屋市立第三高等女学校(市三)のちの旭が丘高校を受けていました。でも3月の空襲で市三の防空壕に爆弾が落ち、同じ国民学校から進んだ同窓生が亡くなつてしまつて。母がお友だちと「お姉ちゃん、市三に滑つてよかつた」と話していたのを覚えています。

半月ほど畑をやつたあと、名古屋市の市営電車から学校に声がかかり、3年生全員が市電の車掌に動員されました。運転手も男子学生がやつていました。当時は6つの車庫があり、私は家から近い浄心車庫に配属されました。切符を切るだけでなく、線路を切り換えるときにボールを下げるのですが、重くて大変でした。その頃は標準服といって、上は筒袖の着物、下はもんぺで車掌をしていました。

4か月ほどして終戦になり、学校に戻りました。校舎は焼けておらず、授業もすぐ再開されました。でも大変な時期で、5年生の卒業まで修学旅行はありませんでした。

高等女学校を卒業して56年たちますが、在学中に先生や先輩に鍛えられましたから、何事にも一生懸命になつてしまふ。未だにお友だちが、「淑徳出は頑張りすぎるからね、少し気を抜こうね」と言っんですよ(笑)。

私は7人兄弟の二番上で、両親は名古屋城の近くで商売をしていました。当時、父は召集されて戦争に行き、幼かった弟妹は両親の実家のある共和に縁故疎開しておりましたので、私は母と二人で暮らしていました。



愛知淑徳高等女学校第40回卒業生
(昭和23年卒業)
早川 澄さん(旧姓:早川)

昭和6年生まれ。現在72歳。
高等女学校卒業後、金城女子専門学校経済科に進み、3年後卒業。
会計事務所に勤めたのち、結婚。
現在、そろばん塾の経営のほか、パッチワーク、体操など、仕事、ボランティア、趣味と多忙な毎日を過ごしている。
大府市の教育委員会からの依頼で、小学生にそろばんを教えることも。
淑徳学園の大府市の同窓会を毎年、開催している。

2年生のとき、学徒動員で奉仕作業、
3年生で終戦。大変な時代でしたが、
淑徳でよかつたと思います。

1905年(明治38年)に設立された愛知淑徳高等女学校は、昭和24年に最後の卒業生を送り出します(以後、愛知淑徳中・高等学校に)。高女時代の最後は太平洋戦争と重なり、昭和19年の学徒勤労令により、本学の生徒も全員が奉仕作業に駆り出されました。卒業生に学園での思い出を伺うシリーズの第3回は、在学中に終戦を迎えた早川澄さんに登場していただきました。



戦後の池下校舎。
右手前の建物1階は教員室、2階は講堂。
奥の建物は事務所、突き当たりは体育館。
顔写真は、2代校長の小林龍二郎先生



3年生の早川さん。
茄子紺の制服に、へちま襟のブラウス。
赤と白のベルト。下は、入学時はスカートだったが、
途中からキュロットに変わったという



5年生の学芸会で
演劇に出演。
父親の背広を借りて
男役に扮した早川さん

今、地元で老人会の役員をしていますが、その中に卒業生の方がみえます。後輩だということ、とてもかわいがつてくださいます。淑徳で本当によかつたと思います。(談)